

- ◆次第：①開会、②議事、③その他
- ◆議事：①基本計画【各論】(素案)について
- ◆審議概要：

①基本計画【各論】(素案)について

【健康・福祉】

<健康・医療>

- 現状と課題(1)、「また、感染症については、県の要望に基づき…」とあるが、事業継続や市民の健康を守るため、県の要請に基づくだけでなく、市独自で考えていくことも必要と思うので、記述について検討いただきたい。
- 現状と課題(2)、「子育て世代包括支援センター」について注釈を入れていただきたい。
- 施策(1)、「○」1つ目、「啓発や予防接種、食育の推進により、疾病予防や健康づくりを推進します」とあるが、短い文の中で様々なことが書かれており、曖昧な表現となっている印象を受けるので、表現について検討いただきたい。
- 施策(2)の「母子保健事業」について、母子というと母と子ということになるが、母親以外のサポートもあると思う。このままの表現で良いのか。
→「母子保健法」に則っているため「母子保健事業」と表現するが、対象は広く捉えている。
→「○」1つ目で「妊産婦・子どもへの切れ目ない支援」となっているので、せめてここの表現の部分で追加ができないか。

<地域福祉>

- ボランティアの人数や団体数が減ってきている。人口が減少しており、また、若い世代への地域社会に参加する教育が十分でない中、これからは、単純思考ではボランティアを増やすことはできない。
- まちづくり協議会が活発なところは福祉活動も活発になる傾向がある。逆に福祉活動が活発になるとまちづくり協議会も活発になっていくということもあるので、まちづくり協議会の福祉活動の支援ということを強調してもらいたい。
- 「多文化・共生型の地域づくり」に向け、市に通訳ができる人を配置しておく必要があると思う。
→「多文化・共生型の地域づくり」を進めるためには、地域福祉の分野だけではなく、様々な分野で取組を進める必要があり、そこに地域をどう巻き込むかを考えていただきたい。
→このあたりの観点は、総論や教育などの各分野でも議論が必要である。
- 施策(1)の成果指標に「づか塾累計受講者数」が入っているが、地域福祉を担う人材が高齢者でなければならぬように受け取ってしまう。

<高齢者福祉>

- 現状と課題(1)、健康寿命が延びると社会保障費が抑えられるとは証明されていない。長生きして良い人生を送るために健康寿命を伸ばしましょうというなら分かるが、社会保障費が増大するから健

康づくりしましょうというのは健全な言い方ではない。

- 施策（１）、「○」１つ目の「健康長寿年齢」は「健康寿命」としてはどうか。
- 地域ごとの健康寿命を知りたいと思ったが調べることができなかった。出せないものか。
- 施策（２）の成果指標がアンケートの項目ばかりなので、認知症サポーターの数や啓発活動にかかる講座の受講者数など、実数が出る指標があっても良いのではないか。
→認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには、小規模多機能型居宅介護の密度を増やす、一般店舗がユニバーサル店舗となり認知症理解のある店員数を増やすなど、様々な施策が総合的に組み合わせないと達成できない。そこも踏まえて検討いただきたい。
- 施策（２）、「認知症施策を推進します」とすると総合的なものとなるため、「住民の認知症への理解を推進する」といった表現の方がより具体的で分かりやすいと思う。
- 施策（２）、体制づくりの進捗が図れる成果指標を盛り込んだ方が良いのではないか。

<障害（がい）者福祉>

- 現状と課題（４）、「工質向上のための共同受注窓口」について注釈が必要ではないか。
- 施策（１）で地域生活支援拠点の整備状況も成果指標として挙げた方が良いのではないか。
- 施策（２）の成果指標に「成年後見制度の認知率」とあるが、市民後見人の数などの方が良いのではないか。
- 施策（４）、「○」３つ目、シンシアは宝塚のシンボルだと思う。施策（１）に記載した方が良いのではないか。

<社会保障>

- めざすまちの姿で「若い世代をはじめ」という表現とした意図は何か。
→若者の貧困に対する予防的社会保障も含め、全世代型であるという考えからこの表現となっている。
→今までの感覚からだとして若い世代に社会保障が必要なのかとってしまう。考えが伝わるように、現状と課題等で予防的というような言葉が出てきても良いのではないか。
- 施策（１）、「○」２つ目、「自立支援を行います」という表現に唐突感がある。
→「自立支援」という概念が広く、人と関係を持ちながら自己実現を行うことが福祉の自立概念である。就労について言及するならば、就労支援を行うと記載した方が良いのではないか。

【子ども・教育】

<児童福祉・青少年育成>

- 現状と課題（１）、「切れ目ない」とあるのは、「切れ目のない」とした方が良いのではないか。
- 現状と課題（３）、「情報通信機器などからもたらされる有害環境」とあるが、情報通信機器のハードから有害なものもたらされるという表現となっている。有害をもたらすのはコンテンツだと思うので、表現を検討していただきたい。
- 施策（１）、「○」４つ目、子どもの貧困対策は教育・生活・就労への支援だけでは対応できない。地域による貧困対策についても記述してはどうか。
→就労は親への支援、教育は子どもへの支援であり、対象が混在しているので整理が必要ではないか。

→子どもの貧困対策にかかる成果指標について検討いただきたい。

→地域と専門職、行政との連携が十分ではない中、その対応について明記した方が良いのではないかと。要保護児童対策にも関わることである。

→貧困の連鎖を防止するという表現の方が良いのではないかと。

→子どもの貧困は親の所得と絡んでいる。就労と教育保障は公的責任の問題であり、地域がすべて解決できるわけではないので、切り分けて記載いただきたい。

→非常に大切な内容なので、行数が増えてでも内容に漏れがないよう文章を検討いただきたい。

- 施策（１）の成果指標について、アンケートではなく、体制づくりに関する成果指標を挙げられないか。

<学校教育>

- 現状と課題（２）に小１プロブレムや中一ギャップ、また、社会を生きていく力の育成との記載があるが、子どもに関する問題なので、現状と課題（１）に入れた方が良いのではないかと。

→小１プロブレムや中一ギャップは学校運営の中で生じる課題という整理である。

- 現状と課題（３）について、核家族化等による家庭の教育力の低下、ひとり親家庭の増加に伴う子どもの貧困となっているが、原因と結果の関係になっていることに疑念がある。表現について検討いただきたい。

- 施策（１）、「～子どもを育てます」という表現が複数あるが、具体的に書く必要があるのではないかと。

- 施策（１）、新規不登校児童生徒出現率の減少を成指標とするのはいかがか。学校に行けなくても、子ども同士の場づくりが進んでいるなどが指標となるのではないかと思う。

- 施策（１）に「ICT 機器を利用した授業を分かりやすいと評価した児童・生徒の割合」の成果指標があるが、どちらかと言えば施策（２）に関連する指標ではないか。

<社会教育>

- 社会教育の施策について、環境の充実といった側面が強く表現されているように感じるが、学びをまちづくりに生かしていくためにはもう一歩進んだ内容が必要ではないか。社会教育の観点から言えば、広く社会に貢献する人を増やしていくことが大切であると思うので、そのあたりをもう少し強く打ち出した方が良いのではないかと。

→施策（１）の成果指標に「図書館での市民１人当たり貸出冊数」があるが、少し残念な気がするので、他の指標を検討いただきたい。

- 施策（１）の成果指標、「公民館登録団体・グループ数」とあるが、近年は、１人ひとりや実行委員会のように一時的に集まり活動するグループが多い。今の指標では実際に学んでいる人の数が見えづらいのではないかと。

- 施策（２）で、スポーツ推進委員の増加や資質の向上に関する内容を盛り込めないか。

→スポーツを推進する市民のボランティア層もおられる。例えば、スポーツ功労賞受賞者数の増加などを成果指標にするのも良いのではないかと。